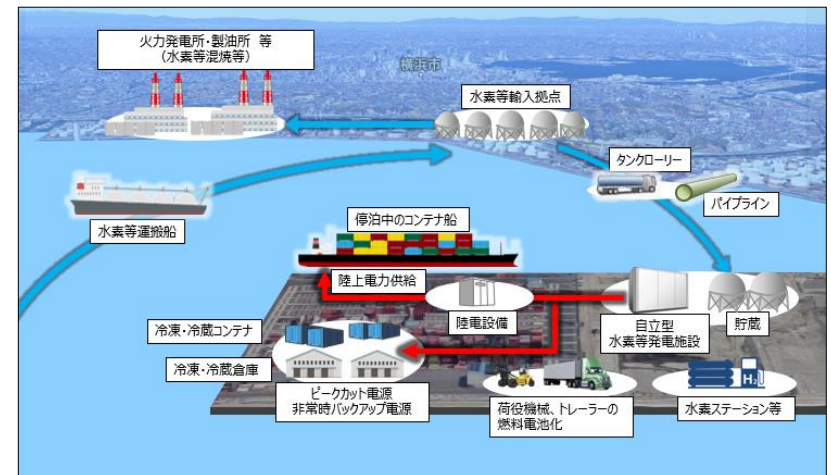


令和4年度(以降)の取組について

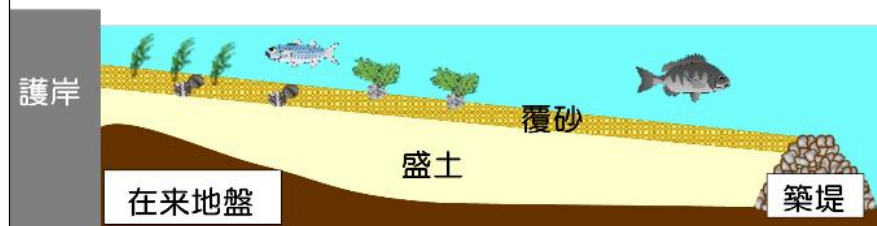


カーボンニュートラルポートの形成

③豊かな海づくり

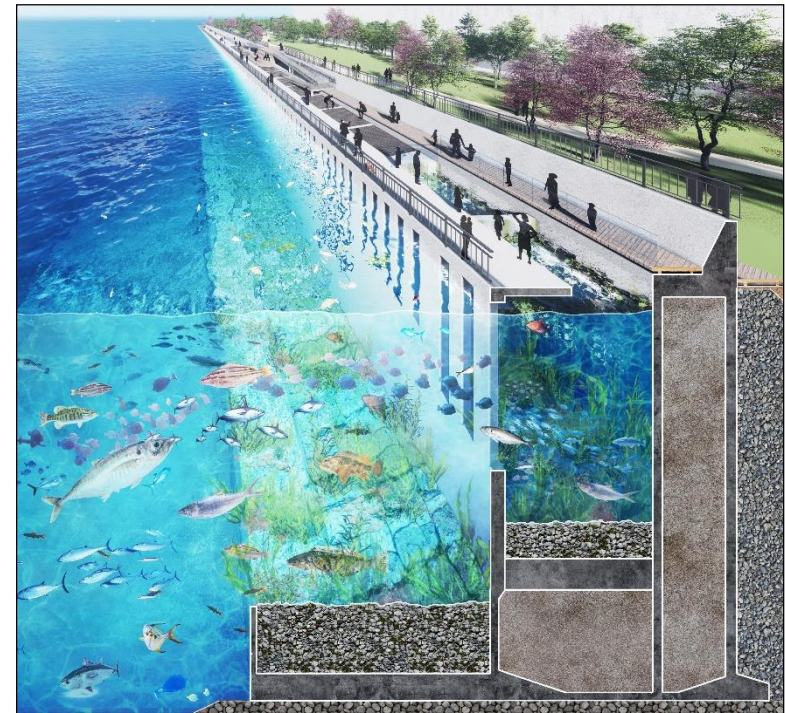
- 生物共生型護岸の整備（新本牧ふ頭整備）
- 藻場・浅場の形成等
- 市民に開かれた漁港の改修
- 直売所や飲食スペースなど新たな賑わい施設の設計、浮桟橋の改修等
- 港内の海底ゴミの除去等
- 海の環境改善活動の支援等
東京湾大感謝祭の開催支援等

<藻場・浅場の形成>



アマモや貝類等が生息することで、赤潮の発生原因となる窒素やリンを吸収し、水質を改善させます。また、稚魚の成育や産卵の場となるほか、ブルーカーボンとして脱炭素化の推進に繋がります。

<生物共生型護岸>



護岸の壁面に波を穏やかにするスリットを設け、上部は日が差し込む構造、中には自然石を敷いて、海藻や海生生物が生息する自然の岩礁を再現します。これにより、海藻類が繁茂し、稚魚の成育や産卵の場としていきます。

カーボンニュートラルポート形成に向けた連携

カーボンニュートラルポートの実現には、様々な分野における関係者と連携して取組を進めていくことが不可欠です。横浜市は民間事業者や大学と協定を締結し、産官学一体となって脱炭素社会の実現に向けた取組を推進しています。

① ENEOS株式会社との連携

水素の輸入・貯蔵・供給・利用というサプライチェーンの構築に向け、水素の輸入拠点化、パイプラインをはじめとする水素供給インフラ整備等について連携して検討、推進します。



【水素供給インフラ網の将来構想（イメージ）】

ENEOS株式会社 提供

② 日本郵船株式会社等との連携

日本郵船株式会社、東芝エネルギーシステムズ株式会社、川崎重工業株式会社、一般財団法人日本海事協会、ENEOS株式会社が進めている水素燃料電池船の運航や船舶への水素燃料の供給などについて連携して取り組み、2024年度頃の実証運航を目指しています。



【水素燃料電池船（イメージ）】

日本郵船株式会社 提供

③ 神奈川大学との連携

同大学がみなとみらい21地区に設立する「海とみなと研究所」と、海中ソーラー発電システム※など、脱炭素社会の実現に向けた研究について協力し、進めていきます。また、人材交流を通じて、高度な専門知識を備えた人材の育成を行っていきます。



【海中ソーラー発電実験】

神奈川大学 提供

※ ソーラーパネルを海面下に設置することで、パネル冷却や汚れ防止、強風の影響を受けにくい等の利点がある。

令和4年度(以降)のCNP形成に向けた取組の進め方

令和2年度	令和3年度	令和4年度以降
2050年カーボンニュートラルを宣言 グリーン成長戦略	国土交通省(本省)における取組 施策の方向性 CNP形成計画策定マニュアル CNP形成計画の取り組みに係るフォローアップ CNP形成計画策定マニュアル更新 輸入拠点港湾の検討 認証制度の創設 等	
横浜港・川崎港CNP検討会 ・横浜港・川崎港CNPのイメージを整理 ・横浜港・川崎港が目指すべき姿のとりまとめ	横浜港・川崎港CNP形成推進会議 ・具体的な取組の検討を深化 ・WGの設置 - ーモビリティ - ー燃料サプライチェーン - ー新産業 ・横浜港・川崎港CNPセミナー ・LNGバンカリング船への陸上電力供給設備の設計に着手	・具体的な取組の検討を深化 ・両港の連携促進 両港でCNP形成計画策定に向けた取組 各港で個別具体的な取組の実施 ・陸上電力供給 ・低、脱炭素型荷役機械の導入 ・コンテナターミナルにおける脱炭素型荷役機械の実証実験 ・船舶燃料の脱炭素化に向けた検討 ・ブルーカーボンの推進 ほか

